



コラム:ハイテクノロジー産業貿易の相手先国・地域

科学技術指標では以前より、ハイテクノロジー産業貿易について、主要国の状況を見ている(本編 5.2.1(2))。そこでは、中国が輸出入ともに拡大、米国は、輸入がより拡大しており、日本でも輸入の伸びの方が輸出より目立つ。また、いずれの国でもハイテクノロジー産業の項目では「電子機器」が多くを占めている状況にある。では、これらハイテクノロジー産業貿易の相手先はどのような国・地域なのであるのか。

図表 5-2-5 にハイテクノロジー産業貿易の相手先国・地域を示した。輸出について、1990年(中国は1992年)と最新年を比較すると、日本、韓国では米国が最も大きな輸出相手であったが、その後は中国およびアジア(日中韓以外)への輸出が多くなった。米国、ドイツ、中国については属する大州(アメリカ州、ヨーロッパ州、アジア州)への輸出が一定の規模を保っている。米国では、日本への輸出が減り、中国への輸出が増えている。

輸入について、1990年(中国は1992年)と最新年を比較すると、日本では58%を占めていた米国が14%となり、中国が1%から36%を占めるように

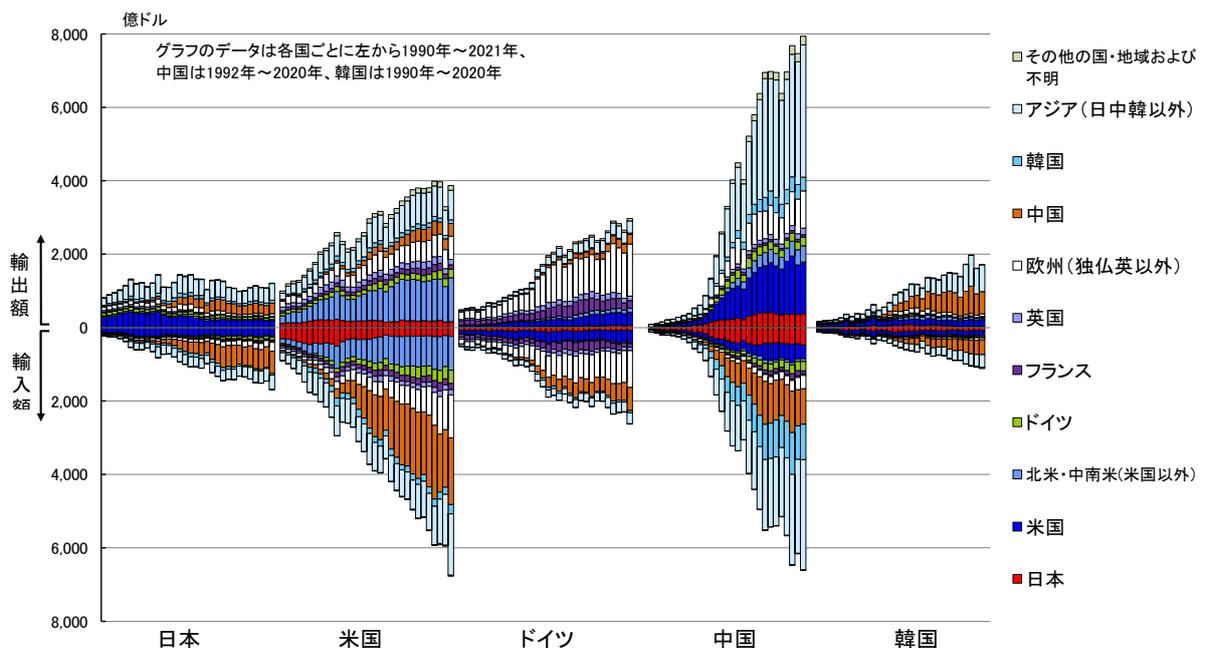
なった。

米国では、34%を占めていた日本が4%となった。代わって台頭したのは中国であり、2%から36%(2012年~2014年)まで増加した。その後2019年に割合が大きく減少し、最新年では27%となった。中国では、1993年時点、日本(30%)、米国(22%)が多くを占めていたが、両国ともに減少し、近年では8%前後となっている。日米に代わってアジア(日中韓以外)(2020年:53%)が多くを占めるようになった。

公安調査庁、「内外情勢の回顧と展望 令和4年(2022年)1月」によると、「米国バイデン政権は、同盟国・同志国との連携を強化しつつ、前政権の取り組みを維持、中国は、法整備を実施するなどして対中規制措置をけん制、経済分野を含む様々な領域における米中の対立には、引き続き相互にけん制する状況が続いている」とされている。ハイテクノロジー産業貿易においても、その影響が少なからず現れている可能性がある。

(神田 由美子)

【図表 5-2-5】 主要国におけるハイテクノロジー産業貿易額の相手先国・地域別推移



注:
 元資料の中国の輸入額の相手先国・地域には、中国も含まれている。これは再輸入に対応する。概要の図表を作成するにあたっては除いた。
 資料:
 OECD, "STAN Bilateral Trade in Goods by Industry and End-use (BTDIxE), ISIC Rev.4".
 参照:表 5-2-5